

2019033

プロジェクト名 薬局におけるAI自動窓口アプリの開発

プロジェクトの概要

薬局において、インバウンドの患者さんに対して、薬剤師が適切かつ円滑に業務を行うために、窓口として自動案内が可能なAIアプリを制作した。患者さんの症状に合わせて項目を選んでいただくことで、日本の一般用医薬品(OTC)医薬品の提案を行えるようにフローを作成した。今回の開発では、機能を限定したプロトタイプであるが、インバウンドの患者さんに安心を提供するため「多言語お薬案内アプリ」に向けて取り組みを行った。

プロジェクトの結果・成果

インバウンドの患者さんにとって、臨床上必要性が高いと考えられる痛み止め・解熱薬・胃腸薬のカテゴリーに焦点を当て、英語・中国語・韓国語に対応したアプリの開発を生産工学部と薬学部の学生が連携して行った。薬学部はドラッグストア・薬局薬剤師へのインタビューや機能や運用方法についての調査を中心に担い、フローイメージの作成を行った。生産工学部はデザインの発案、データベースの作成を中心に担い、プログラミングによりアプリ作成ツール monaca を用いてアプリの構築を行った。

訪日した外国の方が日本において体調が優れなくなり、OTCを購入するため薬局の店頭において操作することを想定した。利用者が症状に応じてアプリ画面の質問項目を数回選択(クリック)するだけで、OTC購入の支援が出来るようなアプリを作成した。OTCの商品名だけではなく、その写真も表示されるよう工夫した。利用者が選択した項目が最後までアプリ上に表示されることで薬剤師が患者の症状を確認できるようになった。薬学部と生産工学部の連携により、システムやデザインにおいてそれぞれの専攻を活かした意見や客観的な判断が得られ、お互いの価値観を学びながら取り組むことができた。

また、船橋市の日本語学校の学生に協力いただき、実際にアプリを使用していただき、操作性やOTCに対する意識等のアンケートを実施し、デザインや操作性に対する様々なアイデアや改善点を把握することが出来た。また、現段階では、OTC購入のための案内のみのプロトタイプであるが、選択されたデータの蓄積や薬剤師への情報提供の充実などを行っていきたい。訪日された外国の方々安心して滞在できるような医療環境整備の一助となるアプリにするべく、さらに改善を行っていきたい。

活動写真

